

# 景況レポート(概要版)

令和2年10月29日  
尼崎市経済環境局 経済活性課

## 尼崎市事業所景況調査 【 2020(令和2)年7-9月期 】

業況判断DIは、全産業で大幅に改善したものの、依然として厳しい状況。製造業、非製造業とも大幅に改善。本調査開始以降、最大の上げ幅。

<調査結果のポイント>

- ◎ 売上高等DI 全産業、製造業、非製造業とも、DI値はマイナスながら大幅に改善。
- ◎ 資金繰りDI 全産業、製造業、非製造業で改善。特に、卸売業、小売業で大幅に改善。
- ◎ 従業員の過不足DI 全産業、非製造業で不足感が強まる。製造業では過剰感が弱まる。

<主要指標の結果概要>

- (1) 業況判断DIは、▲34.0(32.0ポイント上昇)で大幅に改善。来期は改善するものの、厳しさが続く見通し。  
産業別では、製造業は▲33.6(40.9ポイント上昇)で大幅に改善。非製造業は▲34.2(27.7ポイント上昇)で、大幅に改善。  
製造業の規模別では、大企業が▲5.3(52.6ポイント上昇)、中小企業が▲38.6(38.4ポイント上昇)で、ともに大幅に改善。  
非製造業の業種別では、建設業が▲22.3(11.1ポイント上昇)で改善、卸売業が▲27.6(33.6ポイント上昇)で大幅に改善、小売業が▲37.5(25.5ポイント上昇)で大幅に改善、サービス業は▲37.1(31.4ポイント上昇)で大幅に改善しました。
- (2) 出荷額・売上高・完成工事高DIは、▲34.4(31.7ポイント上昇)となり、大幅に改善。
- (3) 売上単価・客単価DIは、▲28.6(6.3ポイント上昇)で、上昇。
- (4) (原材料)仕入価格DIは、8.1(10.9ポイント上昇)で、上昇。
- (5) 在庫水準DIは、6.0(5.4ポイント低下)で、過剰感が弱まる。
- (6) 収益DIは、▲41.9(24.9ポイント上昇)で、大幅に改善。
- (7) 資金繰りDIは、▲26.4(13.8ポイント上昇)で、改善。
- (8) 従業員の過不足DIは、▲18.7(15.1ポイント低下)となり、不足感が強まる。
- (9) 設備投資を実施した企業割合は、17.6%(2.6ポイント上昇)で、上昇。来期は上昇の見通し。

注1: DIは景気動向指数「デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)」の略。「増加」(または「上昇」「好転」「過剰」と回答した企業の比率から「減少」(または「下降」「悪化」「不足」と回答した企業の比率を差し引いたものです。  
注2: ( )内は前回調査との差を示します。

<調査要領>

- (1) 調査時点: 令和2年9月16日
- (2) 調査方法: アンケート用紙郵送による
- (3) 業種別回収数、回収率、配布数: 右表のとおり
- (4) 全体の有効回収率: 40.2%
- (5) 事業主体: 尼崎市  
調査主体: (公財) 尼崎地域産業活性化機構

### <本資料の問い合わせ先>

- 尼崎市 経済環境局 経済活性課  
担当: 木田・重本 連絡先: 06-6489-6670
- (公財) 尼崎地域産業活性化機構 調査研究室  
担当: 宮崎 連絡先: 06-6488-9534・9565  
<https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>

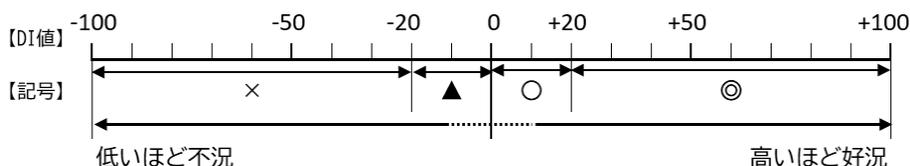
業種	回収数	回収率(%)	配布数
全産業	402	40.2	1,000
製造業	129	49.0	263
大企業	20	48.8	41
中小企業	109	49.1	222
化学	19	50.0	38
鉄・非鉄	33	46.5	71
一般機械	36	57.1	63
電気機械	14	41.2	34
その他	27	47.4	57
非製造業	273	37.0	737
建設業	36	47.4	76
卸売業	29	47.5	61
小売業	57	34.1	167
サービス業	151	34.9	433

## ■景況調査結果の総括（令和2年7-9月期）

業種 項目	全産業	製造業			非製造業				
		全体	大企業	中小企業	全体	建設業	卸売業	小売業	サービス業
今回 業況判断 DI値 ※1	×	×	▲	×	×	×	×	×	×
	-34.0	-33.6	-5.3	-38.6	-34.2	-22.3	-27.6	-37.5	-37.1
前回との 差 ※2	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
	32.0	40.9	52.6	38.4	27.7	11.1	33.6	25.5	31.4

### 表のよみ方

※1：「業況判断DI値」(=「好転した割合」-「悪化した割合」)は、下図のとおり記号化しました。



※2：「前回との差」は、前回調査のDI値との差を、下表のとおり記号化しました。

記号	↓	↓	↓	—	↑	↑	↑
意味	大幅な下落	下落	やや下落	横ばい	やや上昇	上昇	大幅な上昇
DI値の差	-20.0以下	-20.0超～ -5.0以下	-5.0超～ -1.0以下	-1.0超～ 1.0未満	1.0以上～ 5.0未満	5.0以上～ 20.0未満	20.0以上

## ■産業別の概要

**【製造業】**「事業所の業況判断DI」は▲33.6(40.9ポイント上昇)で、大幅に改善しました。「出荷額DI」、「収益DI」は30ポイント超の大幅な改善、「資金繰りDI」は改善、「売上単価DI」は上昇しましたが、「(原材料)仕入価格DI」も上昇しました。「在庫水準DI」は低下しました。「設備投資」を実施した事業所の割合は上昇し、来期は横ばいの見通しです。「従業員の過不足DI」は低下し、過剰感が弱まりました。来期は改善の動きがうかがえますが、厳しさが続く見通しです。

<規模別の業況判断DI>【大企業】で▲5.3(52.6ポイント上昇)、【中小企業】で▲38.6(38.4ポイント上昇)で大幅に改善。来期業況は【大企業】は大幅に悪化、【中小企業】は改善の見通し。

<業種別の業況判断DI>【化学・プラ】は▲15.8(44.2ポイント上昇)、【鉄・非鉄・金属】は▲33.3(52.8ポイント上昇)、【一般・輸送機械】は▲40.0(25.7ポイント上昇)、【電気・機械】は▲21.5(56.2ポイント上昇)、【その他】は▲44.5(29.0ポイント上昇)で、いずれも大幅に改善。来期は【鉄・非鉄・金属】は大幅に改善、【化学・プラ他】【一般・輸送機械】で改善、【その他】で横ばい、【電気機械】で悪化となり、厳しさが残る見通しです。

**【非製造業】**「事業所の業況判断DI」は▲34.2(27.7ポイント上昇)で、大幅に改善しました。「売上高・完成工事高DI」「収益DI」は大幅に改善、「資金繰りDI」は改善。「売上単価・客単価DI」は上昇しましたが、「(原材料)仕入価格DI」がこれを上回る上昇となりました。「在庫水準DI」は低下。「設備投資」を実施した事業所の割合は上昇し、来期も上昇の見通しです。「従業員の過不足DI」は低下し、不足感が強まりました。来期は悪化し、厳しさが続く見通しです。

<業種別の業況判断DI>

- [建設業] ▲22.3(11.1ポイント上昇)で、改善。来期は改善の見通し。
- [卸売業] ▲27.6(33.6ポイント上昇)で、大幅な改善。来期は改善の見通し。
- [小売業] ▲37.5(25.5ポイント上昇)で、大幅な改善。来期は悪化の見通し。
- [サービス業] ▲37.1(31.4ポイント上昇)で、大幅な改善。来期は横ばいの見通し。

調査結果の詳細は、右記ホームページをご覧ください。 <https://www.ama-in.or.jp/research/sub01.html>